

タカダ薬局

江波戸貴弘

統括薬剤師



043-222-4187

takada-ph.co.jp

千葉県千葉市中央区院内2-14-1
第一カラルビル5階

ビジョン

我々は「人」と「組織」という二つの柱軸に盤石な基盤を作り、患者様、地域の皆様、医療従者の皆様、から笑顔と信頼が生まれる薬局（場）として活動しております。

千葉市緑区・市原市・茂原市を中心に地域医療を支えるタカダ薬局。その中核を担うのが、統括薬剤師の江波戸貴弘氏です。検査技術職から薬剤師へと転身し、現在はかかりつけ薬局としての役割を強化しながら、訪問薬局として在宅医療にも積極的に取り組んでいます。高齢化が進む地域において、服薬指導は単なる薬の説明ではなく、患者や家族の生活を支える重要な医療行為です。本記事では、江波戸貴弘氏の歩みとともに、地域に根ざした薬局の未来像を紐解きます(2026年2月取材)。

薬剤師を志した原点 — 地域医療への思いと薬局での役割

江波戸さんが薬剤師を目指したきっかけを教えてください。

私は幼少期から理科系の分野がとても好きで、昆虫を観察したり実験をしたりと、自然界の仕組みを知ることによって夢中になっている子どもでした。

当初は生物学の道へ進みたいという思いも強く、将来は研究に携わる仕事に就きたいと漠然と考えていたのですが、その一方で私は小さな頃から小児喘息を患っており、小学生の時には一度に10錠近い薬を服用することも珍しくありませんでした。

子どもながらに「薬を飲むことで呼吸が楽になる」「日常生活を取り戻せる」という体験を繰り返す中で、薬がもたらす力と恩恵を実感として理解していったことが、後の進路選択に大きな影響を与えたと思います。

さらに、兄が薬学部へ進学したことで家庭内でも薬学という分野がより身近な存在となり、高校時代に読んだ「パラサイト・イヴ」という薬学部を舞台にした作品との出会いが決定打となりました。

「薬学部であれば薬だけでなく生物や医学など幅広い知識を学ぶことができ、国家資格という形で免許も取得できる」という現実的な魅力と、自分の興味関心が一致したことで挑戦する決意が固まり、最終的に東邦大学の薬学部へ進学しました。

薬学部に進学されてからは、どのような学生生活を送られたのですか？

高校時代は弓道部の活動に力を注いでおり、どちらかといえば部活動中心の生活を送っていましたが、大学で専門的に理科系科目を深く学ぶようになると、「体の中ではこのような反応が起きているのか」「薬はどのように作用しているのか」といった新たな発見の連続に強く心を動かされ、人生の中でも最も勉強に打ち込んだ時期になりました。



もちろん大学でも弓道部には所属しており、部活動と学業の両立は想像以上にハードでしたが、その忙しさがかえって充実感につながっていたように思います。

知識を積み重ねるほど、将来は単なる資格取得にとどまらず、学んだ内容を社会でどう活かしたらよいかという考えが芽生え始めた時期でもありました。

大学卒業後はどのような職場に就職されましたか？

大学卒業後は研究職や製薬会社へ就職する友人が多く、私自身も微生物学への関心が強かったことから、所属研究室の教授の紹介をきっかけに輸入食品等の検査をする厚生労働省登録検査機関へ就職しました。大学では微生物学教室に所属していたため、細菌培養や検査業務には馴染みがあり、専門性を活かせる環境であると感じていました。

なかでも印象に残っている業務が「異物検査」で、食品の中に混入していた異物の正体を特定する検査です。数種類の顕微鏡を駆使してカビや虫を同定し、時には電子顕微鏡を使用して異物を調べることもありました。専用の検査室にこもって顕微鏡を覗きながらカビや虫と向き合う作業は、大いに好奇心を刺激される仕事でした。

また、船橋や東京の港、成田空港の貨物地区へ赴き、国内へ入る前の輸入食品をサンプリングして検査を行う業務は、日本の食の安全確保につながる仕事であり、社会的責任の大きさを実感する日々でもありました。

しかし、入職から約7年が経過した頃、「医薬品検査部」の立ち上げプロジェクトに抜擢され、製薬会社の品質管理部門へ3か月間出向して検査技術を学ぶ機会を得たことが、その後調剤薬局へ転職する大きな転機となりました。

医薬品そのものに深く触れる経験を通じて、「自分は薬剤師免許を持ちながら、医療の現場で直接患者さんと関わっていない」という思いが次第に強くなり、資格を生かした働き方へ舵を切りたいと考えるようになりました。

そうした葛藤と向き合った結果、9年間勤めた職場を退職し、2012年に訪問薬局として地域医療を支えるタカダ薬局へ入職する決断に至りました。



検査技術職から訪問薬局薬剤師へ — 服薬指導と在宅支援の歩み

数ある薬局の中で、なぜ「タカダ薬局」を選ばれたのでしょうか？

転職活動の際はエージェントを通じて複数の薬局の採用面接を受けましたが、最終的にタカダ薬局を選んだ最大の理由は、代表である神頭の人柄と「人を大事にする」という考え方に深く共感したことでした。

神頭の掲げる考えが単なるスローガンではなく、日々の経営や現場の判断に根付いていることが伝わってきた点が非常に印象的でした。2012年に入社してから13年以上が経過しましたが、当時の選択は間違っていなかったと今でも感じています。

入社当初は検査技術職からの転身であったため...



続きはQRコードからアクセスしてください → → →